

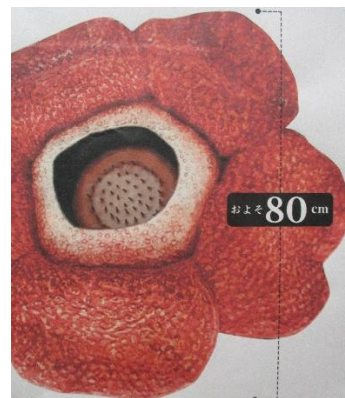
特別展 植物 地球を支える仲間たち

国立科学博物館 21.07.10～09.20 大阪市立自然史博物館 22.01.14～04.03

植物は、光合成という太陽エネルギーから有機物を作り出す能力を手に入れたことで、地球上の生命にとってなくてはならない存在となったものである。

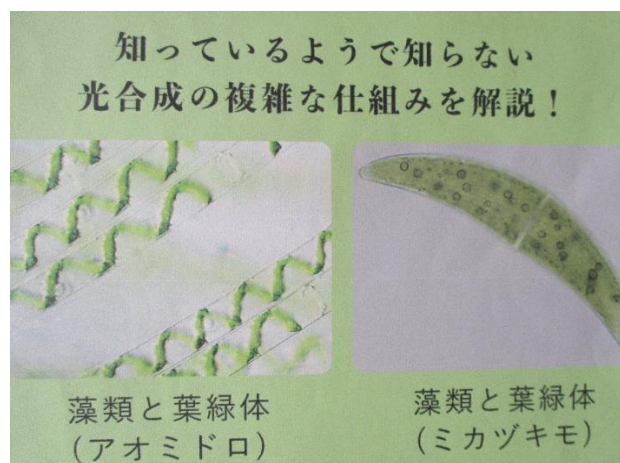
そして、人間と同じ原始的な生命体から進化し、今や地球上の多種多様な環境に生育する最も成功している生物群とされて、最先端の科学研究によって想像を超えるアクティブな生態が明らかになってきたとされている。

本展は、植物を総合的に紹介するこれまでにない大規模な催事で、標本や模型、映像、空間全体展示などを活用してその驚きの実像や迫力に迫っている。



「ラフレシア」は、東南アジア～マレー半島に分布する径80cmもの世界最大の植物で悪臭を放つことで名高いが、実寸大模型で体験することができる。

「シヨクダイオオコンニャク」は、インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林に自生し、最短でも2年に一度2日間しか咲かない世界最大の花として有名。



他に3億年前の樹木「レピドデンドロンの幹」、食虫植物の「ウツボカズラ」「ヘトリソウ」「八重のツバキ」などの興味ある植物が展示されている。